

Taperd Reference Mode における Reference 部位設定の EXP に与える影響

【背景】最近 AptiVue™ が導入され、今まで可視化できなかった Stent 拡張度合を評価できるようになった。Stent Expansion (EXP) の確認は、良好な予後のため重要な指標と言われている。ただし Default の Reference も Stent Edge からは 0.4mm であるが、その根拠は不明。【目的】1. 従来の Stent 留置が Taperd Reference Mode (TRM) で妥当か検証。2. 側枝の有無による影響。3. Reference を変えて EXP が変化するか検討。【方法】従来の Stent 留置 55 例に対し TRM を用いて検証をおこなった。また、Stent Edge より、0.4mm・1.0mm・2.0mm・3.0mm・5.0mm と Reference を変えた場合の EXP の変化を調べた。【結果】従来の Stent 留置法での EXP は平均 83.0% と良好であった。側枝の有無による EXP の違いは認めなかった (85.9vs80.1, NS)。Reference を Stent から遠くに設定すると EXP は大きくなる。0.4mm で 83.0%, 1mm で 87.0% ($P<0.01$), 2mm で 88.6% ($P<0.05$), 3mm で 88.6% (NS), 5mm で 95.2% ($P<0.05$) であった。【考察】Stent 拡張は 80% 以上で良好とされるが、目視による留置でも 83.0% と良好であった。TRM を用いると術中即時に客観的な評価ができ、臨床上使用価値があると思われる。Reference による違いは、Stent 拡張により Stent Edge から 0.4mm 外側の血管も拡張されていた可能性および Stent Edge から外側に病変が残存しており、その病変を Reference として拾った可能性がある。【結語】従来の Stent 留置は TRM で至適であり、側枝の有無で差はなかった。Reference を外側にとると EXP は大きくなり Default で問題ないと思われた。